

この授業は終了しました。

病とともに生きる

火2 増島 麻里子先生

キーワード: 病 ケア 生きる 体験 患者理解

←実際に利用した資料にはチェックをしましょう。

★のついている図書は、授業期間中は本館N棟2階授業資料ナビコーナーにあります。

病と健康に関する基本概念

- 病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学 / アーサー・クラインマン著；江口重幸, 五木田紳, 上野豪志訳 誠信書房 1996
→ 慢性病の患者、家族、臨床家が病いについて語る声を紹介。臨床人類学の概念と方法を知る必読書。著者はこの分野の草分け的研究者。
★【本館L棟3階A 493.1/YAM】
- 病いの意味：看護と患者理解のための現象学 / S.Kay Toombs著；永見勇訳 日本看護協会出版会 2001
→ 医師と患者の間には、病気のあり方に対する基本的な理解の相違が横たわっている。これを心理学的現象学で分析した本。
★【本館L棟3階A 490.145/YAM】
- WHO憲章 【http://www.who.int/governance/eb/who_constitution_en.pdf】

文化に依存する病と健康

- 健康という幻想：医学の生物学的変化 / ルネ・デュボス著；田多井吉之介訳 新装版 紀伊国屋書店 1977
→ 人間と健康の間の葛藤の歴史を、微生物・環境・文明等の視点で描いたエッセイ。著者は微生物学者でありピュリッツァー賞を受賞した文明批評家でもある。
★【本館N棟2階ブックツリー授業資料ナビ 490.4/D817】
- 医療の比較文化論：その原理と倫理を求めて / 久間圭子著 世界思想社 2003
→ 日本に生きる我々が求める医療を実現するには、政治・経済・歴史をも包括する文化的視点が必要。アメリカ医療改革を経験した著者が、医療の現場経験と市民としての立場、帰国後の文化ギャップをふくめ、国際的視点から新たな展望を示す。
★【本館L棟3階A 498.02/IRY】
- 医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る / 池田光穂, 奥野克巳共編 学陽書房 2007
→ 医療人類学(=健康と病気を対象にした人類学的研究)の成り立ちや可能性および具体的なテーマを、12のレッスンに凝縮して紹介。多様なフィールドワークの中から興味のあるテーマを見つけて、さらに深めていくことが出来る本。
★【本館L棟3階A 498/IRY】

がんとともに生きる

- がんと闘った科学者の記録 / 戸塚洋二著；立花隆編 文藝春秋 2009
→ ニュートリノ観測でノーベル賞確実と言われた物理学者・戸塚洋二さん。本書は、がんで余命わずかだと宣告されてから死の直前までの一年弱、みずからの病を見詰めた記録である。
★【本館L棟4階A 916/TOT】
- 厚生労働省 がん対策情報 【<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan.html>】
- 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス 【<http://ganjoho.jp/public/index.html>】
- がんサポート情報センター 【<http://www.gsic.jp/for/index.html>】
- ディベックス・ジャパン 健康と病いの語り 【<http://www.dipex-j.org/>】

透析療法とともに生きる

- わが国の慢性透析療法の現況 【<http://docs.jsdt.or.jp/overview/>】

- 死の病いを共に生きる：腎透析・腎移植患者から治療者へのメッセージ / E・ホッフマイスター編；福西勇夫訳 星和書店 1992
→ 自分は不死身であり、死は常に他人に起きるといふ幻影を生き延びながら多くの透析患者は人生を盲目的に通ら過ぎる。人生がどんなものになり得るのか、その深さや重みを経験すること自体を遠ざけずに理解するための告白。
★【本館L棟3階A 494.93/SHI】
-

生活習慣と循環器疾患

- 日本循環器学会 循環器病の診断と治療に関するガイドライン 【 <http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm> 】
-

糖尿病とともに生きる

- わたし糖尿病なの / 南昌江, 南加都子著 医歯薬出版株式会社 1998
→ 14歳で1型糖尿病と診断され、その後「患者さんの心の痛みがわかる医者」を目指して糖尿病専門医になった南昌江氏と、見守ってきた母加都子さんのエッセイ。
★【本館L棟3階A 493.12/WAT】
- (社)日本糖尿病協会ホームページ 【 <http://www.nittokyo.or.jp/> 】
-

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口 (<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>)
作成：千葉大学附属図書館